

BL32B2 創薬産業ビームライン (蛋白質構造解析コンソーシアム)

蛋白質構造解析コンソーシアム(以下、「コンソーシアム」という)は、薬物標的及び薬物の構造解析研究から製薬企業における研究開発の生産性向上に寄与する、及びビームラインを利用する研究活動をサポートすることを目的に、2001年に発足した。コンソーシアムは、日本製薬工業協会に加盟の製薬会社から構成¹⁾されており、SPring-8に設置した創薬産業ビームライン(BL32B2)を保有し、会員としての参加企業が独立にあるいは共同でこれを利用するための運営を推進してきた。

2000年のBL32B2を含む施設の設置計画に始まり、これらの設計と建設、ハードとソフトの面からのデータ取得に関わる装置の高度化と施設の管理に関して、独立行政法人理化学研究所播磨研究所(以下、「理研播磨研究所」という)と財団法人高輝度光科学研究センター(以下、「JASRI」という)から大いに支援を受けてきた。

2012年に、「専用施設に関する契約書」に基づくBL32B2を含む施設の10年間の設置期間を終了するにあたり、コンソーシアムは本契約の延長又は再契約を行わず、BL32B2を理研播磨研究所に寄附することを決定し、2012年2月3日に創薬産業ビームライン撤去計画書を、2012年3月29日には創薬産業ビームライン撤去完了報告書を理研播磨研究所とJASRIに提出した。

コンソーシアムによるBL32B2を含む専用施設の運用は、コンソーシアムを構成する製薬企業に対して、放射光施設を利用した創薬研究の進歩性、有用性と実際的な活用法を教え、放射光を利用した研究を製薬企業における通常の研究活動へ取り込ませることを推進したといえる。

コンソーシアムの実質的な活動は2012年3月に終了するが、日本製薬工業協会に加盟の16社から構成される創薬産業構造解析コンソーシアム(以下、「創薬コンソ」という)を新たに設立し、その活動を2012年4月から開始する。

創薬コンソは、ビームラインを自らが保有せず、外部機関が所有するビームライン(SPring-8共用および国内公的研究機関のビームライン)を必要十分なビームタイムを確保できる範囲において効率的に利用することを推進するとともに、新たな利用の枠組みを今後とも追求する。

また、創薬コンソは、現在において利用可能又は将来において有望な放射光施設を利用した立体構造解析に関する技術情報の収集及び共有化の活動をサポートする。

蛋白質構造解析コンソーシアム
鈴木 健司

1) 2011年度蛋白質構造解析コンソーシアム加盟会社
(19社、五十音順)

味の素株式会社、アステラス製薬株式会社、エーザイ株式会社、大塚製薬株式会社、キッセイ薬品工業株式会社、協和発酵キリン株式会社、塩野義製薬株式会社、第一三共株式会社、大正製薬株式会社、大鵬薬品工業株式会社、大日本住友製薬株式会社、武田薬品工業株式会社、田辺三菱製薬株式会社、中外製薬株式会社、帝人ファーマ株式会社、日本新薬株式会社、日本たばこ産業株式会社、Meiji Seika ファルマ株式会社、持田製薬株式会社